平　成　29　年　度

登録販売者試験問題

（午前）

受験上の注意

1　問題は60問で、解答時間は２時間である。

2　「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記する。

3　答案用紙（マークシート）の記入方法

⑴　答案用紙（マークシート）の注意欄をよく読んで記入すること。

⑵　答案用紙（マークシート）に受験番号と氏名を記入し、受験番号をマークすること。

⑶　答えは答案用紙（マークシート）に記入すること。問題用紙に記入しても無効である。

⑷　各問題には答えの選択肢が１から４または５まであるが、適合する答えは１つである。最も適当と思ったものを１つ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。２つ以上マークした場合は誤りとなる。

―― 例 ――

問１　次のうち日本の首都はどこですか。

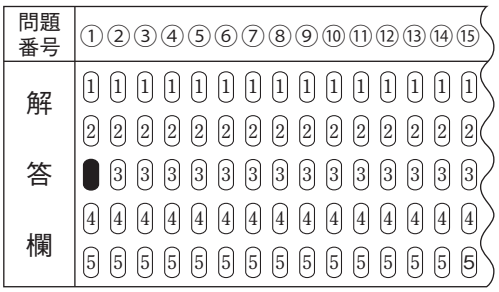
１　神　　戸

２　京　　都

３　東　　京

４　福　　島

答えは→



4　問題用紙の交錯・重複・落丁および印刷不鮮明なものは挙手をし、係員に申し出て交換すること。

5　試験が終了したら受験票及び問題用紙は持ち帰ること。

6　この問題の無断転載を禁ずる。

問１　医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
ｂ　医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
ｃ　医薬品は、知見の積み重ねによって、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。
ｄ　医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡るが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	誤	誤	正
２	正	正	誤	正
３	正	正	正	誤
４	誤	正	正	誤
５	誤	誤	正	正

問２　医薬品のリスク評価に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

１　ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準として、国際的にＧｏｏｄ　Ｌａｂｏｒａｔｏｒｙ　Ｐｒａｃｔｉｃｅ（ＧＬＰ）が制定されている。
２　医薬品については、食品と同等の安全性基準が要求されている。
３　医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と暴露量の和で表現される用量―反応関係に基づいて評価される。
４　医薬品は、治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。

問３　医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
ｂ　医薬品に対しては製造販売後の調査及び試験の実施の基準としてＧｏｏｄ Ｖｉｇｉｌａｎｃｅ Ｐｒａｃｔｉｃｅ（ＧＶＰ）と製造販売後安全管理の基準としてＧｏｏｄ Ｐｏｓｔ－ｍａｒｋｅｔｉｎｇ Ｓｔｕｄｙ Ｐｒａｃｔｉｃｅ（ＧＰＳＰ）が制定されている。
ｃ　薬物の毒性の指標として、５０％致死量（$ＬＤ_{50}$）が用いられる。
ｄ　医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験や反復投与毒性試験等の毒性試験が厳格に実施されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	正

問４　健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品を扱う者は､いわゆる健康食品は医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。
ｂ　機能性表示食品は、疾病に罹(り)患している者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨を表示するものである。
ｃ　栄養機能食品については、各種ビタミン、ミネラルに対して栄養機能の表示ができる。
ｄ　健康補助食品（いわゆるサプリメント）は、錠剤等の医薬品と類似した形状のものも多く、誤った使用法により健康被害を生じた例も報告されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問５　以下の医薬品の副作用に関する記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関（ＷＨＯ）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を（　ａ　）ために、人に（　ｂ　）量で発現する医薬品の有害かつ（　ｃ　）反応」とされている。

	ａ	ｂ	ｃ
1	正常化する	用いられる最小	重篤な
2	向上させる	通常用いられる	重篤な
3	向上させる	用いられる最小	意図しない
4	正常化する	通常用いられる	意図しない
5	正常化する	用いられる最小	意図しない

問６　アレルギーに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　免疫機構が過敏に反応して、体の各部位に生じる炎症をアレルギー症状という。
ｂ　アレルギーには体質的な要素はあるが、遺伝的な要素はない。
ｃ　普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態等の場合には、医薬品がアレルゲンになりやすくなり、思わぬアレルギーを生じることがある。
ｄ　医薬品のアレルギーは、内服薬によって引き起こされるものであり、外用薬によって引き起こされることはない。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問７　医薬品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。

ｂ　相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならないのが通常である。

ｃ　医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄（せつ）される過程で起こり、医薬品が薬理作用をもたらす部位では起こらない。

ｄ　一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせて含んでいることが多く、他の医薬品と併用した場合、同様な作用を持つ成分が重複することがあり、作用が強く出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問８　以下の酒類（アルコール）と医薬品の相互作用に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。アルコールは、主として（　ａ　）で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その代謝機能が（　ｂ　）ことが多い。その結果、アセトアミノフェンは、通常よりも代謝（　ｃ　）なり、体内からの消失が（　ｄ　）なるため、十分な効果が得られなくなることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	小腸	高まっている	されやすく	速く
2	小腸	低下している	されにくく	遅く
3	肝臓	高まっている	されにくく	速く
4	肝臓	高まっている	されやすく	速く
5	肝臓	低下している	されやすく	遅く

問９　次の記述は、小児と医薬品に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　家庭内の医薬品の保管場所については、いつでも取り出せるよう、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所とすることが適切である。
ｂ　医薬品の使用上の注意において、おおよその目安として、乳児は１歳未満、幼児は５歳未満、小児は１２歳未満との年齢区分が用いられている。
ｃ　小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品成分の代謝・排泄（せつ）に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
ｄ　５歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤等の医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問10　高齢者に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　一般に生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすいが、副作用が生じるリスクは若年時と比べて低くなる。
２　持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の治療の妨げとなる場合がある。
３　医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、誤嚥（えん）を誘発しやすくなるので注意が必要である。
４　医薬品の飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族の理解や協力も含めた配慮が重要となることがある。

問11　次の記述は、妊婦若しくは妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　胎盤には、胎児の血液と母体の血液が混ざり合う仕組みがある。
b　医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。
c　一般用医薬品においては、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は容易であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
d　乳幼児に好ましくない影響が及ぶことが知られている医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避けることができるよう、積極的な情報提供がなされる必要がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問12　次の記述は、医薬品の品質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　医薬品の外箱等に表示されている「使用期限」は、開封された後も、記載されている期日まで品質が保証されるものである。
b　医薬品は、適切な保管・陳列がなされない場合は、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがあるが、医薬品の効き目が低下することはない。
c　一般用医薬品では、薬局又は店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
d　品質が承認された基準に適合しない医薬品や全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は、販売等が禁止されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問13　第１欄の記述は、一般用医薬品の定義に関するものである。（　　）の中に入れるべき字句は第２欄のどれか。

第１欄

一般用医薬品は、医薬品医療機器等法第４条第５項第４号において「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであつて、（　　）から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）」と定義されている。

第２欄

１　登録販売者　　２　医師若しくは薬剤師　　３　医師若しくは歯科医師
４　薬剤師その他の医薬関係者　　５　供給者

問14　一般用医薬品の役割に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　重篤な疾病に伴う症状を改善する。
ｂ　生活習慣病等の疾病に伴う症状発現を予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）する。
ｃ　生活の質（ＱＯＬ）を改善・向上する。
ｄ　健康を維持・増進する。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	正	正	誤
２	正	誤	正	正
３	正	正	誤	誤
４	正	誤	誤	正
５	誤	正	正	正

問15　一般用医薬品の選択及びセルフメディケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　近年、専門家による適切なアドバイスの下、生活者が身近にある一般用医薬品を利用する「セルフメディケーション」の考え方がみられるようになっている。
2　一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して常に自己の経験だけに基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
3　一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人によって変わってくるものであり、例えば、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくることに留意される必要がある。
4　一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。

問16　販売時のコミュニケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　購入者が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用しようとするよう、働きかけていくことが重要である。
b　一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
c　購入者に対し、正確な情報提供を行うため、説明した内容が購入者にどう理解され、行動に反映されているか等の実情を把握することなく、添付文書や製品表示に記載された内容どおりに専門用語を用いて説明することが適切である。
d　情報提供を受ける購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報のほか、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問17　以下のサリドマイドに関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

サリドマイドは、妊娠している女性が摂取した場合、（　　a　　）を通過して胎児に移行する。

サリドマイド訴訟は、（　　b　　）等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

サリドマイドによる薬害事件は、我が国のみならず世界的にも問題となったため、ＷＨＯ加盟国を中心に（　　c　　）の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	血液脳関門	解熱鎮痛剤	市販前
2	血液胎盤関門	解熱鎮痛剤	市販後
3	血液胎盤関門	催眠鎮静剤	市販前
4	血液胎盤関門	催眠鎮静剤	市販後
5	血液脳関門	催眠鎮静剤	市販後

問18　次の記述は、キノホルム製剤とスモン訴訟に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　スモン訴訟とは、解熱鎮痛薬として販売されたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症（スモン）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

b　キノホルム製剤は、一般用医薬品として販売されたことはない。

c　スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、世帯厚生資金貸付による生活資金の貸付、重症患者に対する介護事業が講じられている。

d　スモン訴訟をひとつの契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問19　ＨＩＶ訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
ｂ　国及び製薬企業を被告として、１９８９年５月に大阪地裁、同年１０月に東京地裁で提訴され、未だ和解に至っていない。
ｃ　ＨＩＶ訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として、検査や献血時の問診の充実が図られた。
ｄ　国は、ＨＩＶ感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問20　クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）とその訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ＣＪＤは、ウイルスの一種であるプリオンが脳の組織に感染することによって発症する。
ｂ　ＣＪＤは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
ｃ　ＣＪＤ訴訟は、脳外科手術等に用いられたヒト乾燥硬膜を介してＣＪＤに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
ｄ　ＣＪＤ訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設される契機のひとつとなった。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問21　かぜ（感冒）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　単一の疾患ではなく、主にウイルスが鼻や喉等に感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
b　冷気や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因により発症する場合はない。
c　季節や時期等によって原因となるウイルスや細菌の種類は異なる。
d　よく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が４日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問22　かぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　サリチルアミド ―――――― 発熱を鎮め、痛みを和らげる
b　メキタジン ―――――― くしゃみや鼻汁を抑える
c　ノスカピン ―――――― 痰（たん）の切れを良くする
d　グアイフェネシン ―――――― 鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげる

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問23　解熱鎮痛成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アスピリンは、他の解熱鎮痛薬に比較して胃腸障害を起こしにくい。
b　イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を促進することで消化管粘膜の防御機能を亢(こう)進させる。
c　イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱い。
d　アセトアミノフェンが配合された製剤には、内服薬のほか、専ら小児の解熱に用いる坐(ざ)薬もある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問24　カフェインの働きに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1　反復摂取により依存を形成する性質はない。
2　心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸(き)が現れることがある。
3　腎臓における水分の再吸収促進作用があり、尿量の減少をもたらす。
4　胃液分泌抑制作用があり、副作用として胃腸障害が現れることがある。

問25　次の記述は、鎮暈(うん)薬（乗物酔い防止薬）の代表的な配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　抗コリン成分は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる作用を示す。
b　抗ヒスタミン成分は、延髄にある嘔(おう)吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
c　抗ヒスタミン成分として、ジフェニドール塩酸塩が配合されている場合がある。
d　抗コリン成分であるスコポラミン臭化水素酸塩は、消化管から吸収されにくく、抗ヒスタミン成分であるメクリジン塩酸塩と比べて作用の持続時間は長い。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問26　次の記述は、小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　保護者側の安眠を図ることを優先して使用することが適当である。
b　症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（１ヶ月位）継続して服用されることがある。
c　鎮静作用のほか、血液の循環を抑制させる作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
d　主な漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散や小建中湯がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問27　鎮咳去痰薬の代表的な配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　チペピジンヒベンズ酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える成分である。
b　ジメモルファンリン酸塩は、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
c　コデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させる作用を示し、副作用として便秘が現れることがある。
d　デキストロメトルファンフェノールフタリン塩は、主にトローチ剤・ドロップ剤に配合される鎮咳成分である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

問28　次の１～５で示される気管支に作用する成分等のうち、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させるものはどれか。

１　マオウ　　２　ジプロフィリン　　３　トリメトキノール塩酸塩
４　メチルエフェドリン塩酸塩　　５　メトキシフェナミン塩酸塩

問29　鎮咳去痰薬として用いる漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　神秘湯は、体力中等度あるいはそれ以上で、咳、喘鳴、息苦しさがあり、痰が少ないものの小児喘息、気管支喘息、気管支炎に用いられる。
b　甘草湯は、短期間の服用に止め、連用しないこととされている。
c　麦門冬湯は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。
d　柴朴湯は、むくみの症状のある人に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問30　口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

１　口腔咽喉薬には、鎮咳成分や気管支拡張成分は配合されず、去痰成分が配合されている。
２　トローチ剤やドロップ剤は、噛み砕いて飲み込むことにより一層効果が期待できる。
３　口腔咽喉薬・含嗽薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であり、全身的な影響を生じることはない。
４　含嗽薬を用いる場合、顔を上向きにして咽頭の奥まで薬液が行き渡るようにガラガラを繰り返してから吐き出し、それを数回繰り返すのが効果的なうがいの仕方とされる。

問31　次の記述は、口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）の配合成分等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合されている。
b　ウイキョウは、咽頭の粘膜に付着したアレルゲンによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として配合される。
c　ポビドンヨードは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
d　グリセリンは、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用のほか、抗菌作用がある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問32　次の１～５で示される成分等のうち、中和反応によって胃酸の働きを弱めること（制酸）を目的として、配合されるものはどれか。

1　合成ヒドロタルサイト　2　ウルソデオキシコール酸
3　ピレンゼピン塩酸塩　4　ジメチルポリシロキサン　5　ゲンチアナ

問33　大腸刺激性瀉下成分等に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　センナ中に存在するセンノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。
2　構成生薬にダイオウを含む漢方処方製剤では、瀉下作用の増強を生じて、腹痛、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすくなるため、瀉下薬の併用に注意する必要がある。
3　ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する目的で用いられる。
4　アロエは、センノシドに類似の物質を含むため、大腸刺激による瀉下作用を期待して配合される。

問34　腸の不調に対する受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の使用中に原因が明確でない下痢や便秘を生じた場合は、安易に止瀉(しゃ)薬や瀉(しゃ)下薬によって症状を抑えようとせず、その医薬品の使用を中止して、医師や薬剤師等の専門家に相談するよう説明するべきである。

b　瀉(しゃ)下薬が手放せなくなっているような慢性の便秘については、漫然と継続使用するよりも、医師の診療を受ける等の対応が必要である。

c　過敏性腸症候群の便通障害のように下痢と便秘が繰り返し現れるものもあり、症状が長引くような場合には、医師の診療を受ける等の対応が必要である。

d　下痢に発熱を伴う場合は、食中毒菌等による腸内感染症の可能性があるため、安易に止瀉(しゃ)薬を用いて症状を一時的に鎮めようとするのでなく、早期に医療機関を受診して原因の特定、治療がなされるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問35　第１欄の記述は、胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬の配合成分に関するものである。第１欄の記述に該当する配合成分として正しいものは第２欄のどれか。

第１欄

消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣(けいれん)を鎮める作用を示すとされる。抗コリン成分と異なり、胃液分泌を抑える作用は見出されない。

第２欄

1　ロートエキス　　2　ジサイクロミン塩酸塩　　3　オキセサゼイン
4　パパベリン塩酸塩　　5　オキシフェンサイクリミン塩酸塩

問36　次の記述は、一般用医薬品の浣(かん)腸薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　坐(ざ)剤を挿入することにより直腸粘膜を傷つけるおそれはないため、その硬さを考慮する必要はない。
b　注入剤を使用する際は、薬液を人肌程度に温めておくと、不快感を生じることが少ない。
c　一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産や早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
d　便秘以外のときに直腸内容物の排除を目的として用いることは、使用方法として適切である。

1（a、b）　2（a、d）　3（b、c）　4（c、d）

問37　次の記述は、駆虫薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品が対象とする寄生虫は、回虫、蟯(ぎょう)虫と条虫である。
b　腸管内に生息する虫体及び虫卵に作用する。
c　食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。
d　複数の駆虫薬を併用しても駆虫効果が高まることはなく、副作用が現れやすくなり、また、組み合わせによってはかえって駆虫作用が減弱することもある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問38　次の記述は、動悸及び息切れに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　不安やストレス等の精神的な要因で起こることはない。
b　動悸は、心臓の働きが低下して十分な血液を送り出せなくなり、脈拍数を増やすことによってその不足を補おうとして起こる。
c　息切れは、心臓から十分な血液が送り出されないと体の各部への酸素の供給が低下するため、呼吸運動によって取り込む空気の量を増やすことでそれを補おうとして起こる。
d　体調不良時でも平静にしていれば起こることはない。

1（a、b）　2（a、d）　3（b、c）　4（c、d）

問39　血中コレステロールと高コレステロール改善成分の働きに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1　コレステロールの産生及び代謝は、主として膵臓で行われる。
2　低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質である。
3　リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされる。
4　大豆油不鹸化物（ソイステロール）は、ＬＤＬ等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）産生を高める作用があるとされる。

問40　貧血用薬（鉄製剤）の配合成分に関する記述について、（　　）の中に入れるべき正しい字句はどれか。

（　　）は、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンＢ１２の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、その硫酸塩が配合されている場合がある。

1　銅　2　マンガン　3　亜鉛　4　カルシウム　5　コバルト

問41　次の記述は、外用痔疾用薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　痔に伴う痛みや痒みを和らげることを目的として用いられるリドカインやジブカイン塩酸塩が局所麻酔成分として配合された坐剤では、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
b　局所への穏やかな刺激により痒みを抑える効果を期待して、カンフルやメントール等が配合される場合がある。
c　デカリニウム塩化物やイソプロピルメチルフェノールは、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護や止血を目的として配合される場合がある。
d　坐剤及び注入軟膏は、局所に適用されるものであるため、全身的な影響を考慮する必要はない。

1　（a、b）　2　（a、c）　3　（b、d）　4　（c、d）

問42　内用痔疾用薬に配合されている成分等とその期待される効果に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　セイヨウトチノミは、殺菌作用を期待して配合される。
b　ビタミンEは、鬱血の改善を期待して配合される。
c　カイカクは、止血効果を期待して配合される。
d　オウゴンは、抗炎症作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問43　次の記述は、泌尿器用薬として用いられる生薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　ウワウルシは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬である。
ｂ　モクツウは、アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓(つる)性の茎を、通例、横切りにしたものを基原とする生薬である。
ｃ　ブクリョウは、ユリ科のケナシサルトリイバラの塊茎を基原とする生薬である。
ｄ　カゴソウは、クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬である。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問44　次の１～５で示される漢方処方製剤のうち、「体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適す」とされるものはどれか。

１　牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)　２　八味地黄丸(はちみじおうがん)　３　六味丸(ろくみがん)　４　猪苓湯(ちょれいとう)
５　竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)

問45　婦人薬として用いられる主な漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる。

b　四物湯（しもつとう）は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。

c　桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷え等を訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹（しん）・皮膚炎、にきびに適すとされる。

d　加味逍遙散（かみしょうようさん）は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾（じ）、打撲症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問46　抗ヒスタミン成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジフェンヒドラミンを含む成分については、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
b　抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用を示さず、排尿困難の症状の悪化を招くことは少ない。
c　メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
d　クロルフェニラミンマレイン酸塩は、血小板から遊離したヒスタミンが肥満細胞と反応するのを妨げることにより抗ヒスタミン作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問47　次の記述は、鼻炎用点鼻薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　鼻腔（くう）内に適用される外用液剤であり、全身的な作用を目的としている。
b　アドレナリン作動成分は、鼻粘膜を通っている血管を収縮させ、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的に用いられる。
c　アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度の使用でも、鼻づまり（鼻閉）がひどくならない。
d　一般用医薬品での対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔（くう）炎であり、慢性のものは対象となっていない。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問48　眼科用薬の配合成分とその目的とする作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　コンドロイチン硫酸ナトリウムは、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して用いられる。
b　クロモグリク酸ナトリウムは、花粉、ハウスダスト（室内塵（じん））等による目のアレルギー症状（結膜充血、痒（かゆ）み、かすみ、流涙、異物感）の緩和を目的として用いられる。
c　ビタミンAは、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
d　スルファメトキサゾールナトリウムは、ブドウ球菌や連鎖球菌による結膜炎やものもらい、眼瞼（けん）炎等の化膿（のう）性の症状の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問49　きず口等の殺菌消毒成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1　アクリノールは、黄色の色素で、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
2　ヨウ素系殺菌消毒成分は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
3　ベンザルコニウム塩化物は、石鹸（けん）との混合により殺菌消毒効果が増す。
4　クロルヘキシジングルコン酸塩は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。

問50　一般的な創傷への対応に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼやハンカチ等を当てて圧迫し、止血するが、このとき、創傷部を心臓より高くして圧迫すると、止血効果が高い。
b　火傷（熱傷）の場合は、速やかに、水道水等で熱傷部を冷やすことが重要である。
c　火傷（熱傷）による水疱（水ぶくれ）は、ただちに滅菌した器具で破り、浸出液を取り除く必要がある。
d　創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し使用すると、かえって治癒しにくくなったり、状態を悪化させることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問51　次の記述は、みずむしやたむし等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　みずむし、たむし等は、皮膚糸状菌（白癬菌）という真菌類の一種が皮膚に寄生することで起こる疾患である。
b　いんきんたむしは、輪状の小さな丸い病巣が胴や四肢に発生し、発赤と鱗屑、痒みを伴う。
c　爪白癬は、爪内部に薬剤が浸透しにくいため難治性で、医療機関（皮膚科）における全身的な治療（内服抗真菌薬の処方）を必要とする場合が少なくない。
d　治療薬の剤形の選択に関して、一般に、皮膚が厚く角質化している部分には、クリームが適する。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問52　毛髪用薬及びその配合成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　「壮年性脱毛症」、「円形脱毛症」等の疾患名を効能・効果に掲げた毛髪用薬は、医薬品及び医薬部外品として製造販売されている。
ｂ　カシュウは、抗菌、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
ｃ　カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）においてアセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示し、頭皮の血管を拡張し、毛根への血行を促す。
ｄ　チクセツニンジンは、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	正
２	正	誤	誤	誤
３	誤	誤	正	正
４	誤	正	誤	正
５	誤	正	正	誤

問53　次の１～５で示されるビタミンのうち、歯槽膿漏薬において、歯周組織の血行を促す効果を期待して配合されていることがあるものはどれか。

１　ビタミンＡ　　２　ビタミンＢ６　　３　ビタミンＤ　　４　ビタミンＥ
５　ビタミンＫ

問54　次の記述は、ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　うつ病と診断されたことのある人では、使用を避ける必要がある。
ｂ　妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、摂取されたニコチンにより胎児又は乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
ｃ　禁煙補助剤を使用する際は、喫煙を完全に止めず、徐々に喫煙の頻度を減らしていくことで、結果的に禁煙達成につながる。
ｄ　咀嚼剤では、口腔内がアルカリ性になるとニコチンの吸収が低下する。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問55　滋養強壮保健薬に配合される成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ビタミンＡは、妊娠３ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性及び妊娠を希望する女性は過剰摂取に留意する必要がある。
ｂ　ビタミンＢ２の摂取により、尿が黄色くなることがある。
ｃ　アミノエチルスルホン酸は、骨の形成を助ける栄養素であるが、過剰症として高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
ｄ　システインは、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	正

問56　次の１～５で示される生薬成分のうち、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とし、肌荒れやいぼに用いられるものはどれか。

１　ヨクイニン　　２　オウギ　　３　ゴミシ　　４　タイソウ
５　サンシュユ

問57　漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　患者の「証」に合わないものが選択された場合には、効果が得られないばかりでなく、副作用を招きやすくなる。
b　作用が穏やかであるため、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用は起きない。
c　漢方医学は古来に中国から伝わったもので、現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤を漢方処方製剤として使用している。
d　用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合でも、生後３ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問58　次の記述は、代表的な衛生害虫に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　外敵から身を守るために人体に危害を与えることがあるもの（ハチ、ドクグモ等）は衛生害虫に含まれる。
b　ツツガムシによる保健衛生上の害は、主に吸血された時の痒（かゆ）みである。
c　トコジラミは、シラミの一種でなくカメムシ目に属する昆虫で、ナンキンムシとも呼ばれる。
d　ゴキブリの燻（くん）蒸処理を行う場合、その卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、3週間位後に、孵（ふ）化した幼虫の駆除のため再度燻（くん）蒸処理を行う必要がある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問59　一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般の生活者が正しく用いて原因疾患を把握し、一般用医薬品による速やかな治療につなげることを目的として用いられる。
b　いかなる検査薬においても擬(ぎ)陰性・擬(ぎ)陽性を完全に排除することは困難である。
c　一般用検査薬の対象には、悪性腫瘍、心筋梗塞や遺伝性疾患等、重大な疾患の診断に関係するものが含まれる。
d　尿糖値に異常を生じる要因は､一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問60　妊娠検査薬とその検体に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね１週目以降の検査が推奨されている。
b　検体としては、尿中のヒト絨(じゅう)毛性性腺刺激ホルモン（ｈＣＧ）が検出されやすい早朝尿（起床直後の尿）が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
c　採取した尿は、なるべく採尿後速やかに検査がなされることが望ましい。
d　検査薬は、その検出感度を維持するため、開封するまで冷蔵庫内で保管し、開封後速やかに使用するのが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤